

## 令和 2 年度第 2 回堺市環境審議会におけるご意見及び対応等について

項目	ご意見の内容	委員	対応等
戦略の趣旨	環境モデル都市や SDGs 未来都市の取組等を踏まえるのであれば「全く新たな」という表現はおかしい。	西委員	ご指摘の表現も含め、文章全体をわかりやすく修正しました。
戦略の基本的事項	SDGs の更に先の時代で、環境・社会・経済が統合された姿はどのようなイメージなのか。ジェンダー平等と環境、再生可能エネルギー推進とジェンダーという視点を踏まえられているか。	山口委員	基本的な考え方の「②環境・社会・経済の統合的向上」において、社会面の具体的な内容としてジェンダー等を追記しました。
	コロナ禍でセクター間の関係性が変わってきた。環境・社会・経済の統合的向上というが、特に社会と経済など、今までのくくりではいけなくなっているのではないか。そのあたりを上手く表現できないか。	内田委員	コロナ禍の中で、社会や経済についての今後の見通しที่ไม่透明な状況であることも踏まえ、「2050 年の堺を取り巻く状況」において、今後様々な可能性が考えられることを表現しました。
	周辺地域との循環・共生の前に、地域内での共助が先にあるのではないか。	福岡委員	「戦略の基本的事項」の基本的な考え方④「パートナーシップによる“循環”・“共生”」において、地域内共助について記載しました。
	スマート社会など、今記載されているキーワードも必要だが、その環境の将来像が、人としての幸せや豊かな生活につながっていくというイメージを出せれば良い。自然との共生など。	前迫委員	「戦略の基本的事項」の基本的な考え方③として「市民の幸福のための環境イノベーション」と記載しました。
コロナ関係	コロナについて、ここまでボリュームを割いて記載する必要があるのか。	札幌委員	新型コロナウイルスによる影響に関しては、前回審議会においてもグリーンリカバリーの視点は重要とのご意見もあり、記載は削除しておりませんが、文章全体のボリュームを抑える観点からわかりやすく修正しました。

項目	ご意見の内容	委員	対応等
	グリーンリカバリーはコロナだけではなく、地球温暖化からのリカバリーなど、その先も考えていく必要があるのではないか。	福岡委員	コロナの影響等により社会が大きく変動している中、長期的な見通しは不透明であることから、今回の戦略では、まずはコロナからのリカバリーを念頭に置くこととし、状況の変化に合わせて、ご意見も踏まえて適宜改定等を検討していきます。
2050年の環境将来ビジョン	キーワードとして水関係が弱いと感じる。	西委員	「2050年の環境将来ビジョン」において水質汚濁の防止や水辺空間等の整備について、「戦略実現に向けたロードマップ」において海域・河川環境の改善について記載しました。
	水素エネルギーの活用を盛り込んでいくべき。	大林委員	「2050年の環境将来ビジョン」や「戦略実現に向けたロードマップ」において、水素エネルギーの活用について記載しました。
戦略の実現に向けて	パートナーシップの項目では、推進体制を明確にすることが必要。	山口委員	「戦略の実現に向けて」の項目において、パートナーシップの具体化に向けて市、事業者、市民それぞれの役割を記載しました。
	パートナーシップについて、未来の世代の参画を特出しして表現していくべき	西委員	「戦略の実現に向けて」の項目において、若年層へのビジョンの発信や若年層による戦略の見直しについて記載しました。
その他	難しい言葉は市民はわからない。堺市の計画は「誰が何をしたら良いのか」が表現できていない。例えばこれだけ緑化すれば気温がこれだけ下がるとか、そういうことがわかれば市民も協力しようと思う。	山口委員	文章については、できる限り平易な表現を使用するように全体的に見直しを行いました。
	若い世代が自由に議論して戦略を決めていける、ボタンタッチしていくということを表現できないか。	若林委員	「戦略の実現に向けて」の項目において、若年層による戦略の見直しについて記載しました。

項目	ご意見の内容	委員	対応等
	地域づくり、人づくりという視点を盛り込んで欲しい。	藤田委員	ご意見を踏まえ、人の個々の価値観や行動が全ての基盤になるものとして、「戦略の基本的事項」や「2050年の環境将来ビジョン」を作成しました。
	環境情報の整備・提供といった内容を盛り込んでどうか。	藤田委員	環境情報の提供については、法令に基づく大気汚染等の常時監視や、環境基本条例に基づく環境白書の発行などを実施しており、引き続き必要な情報提供に努めていきます。
	「堺らしさ」をどう盛り込んでいくのか。	藤田委員	「2050年の環境将来ビジョン」において、堺らしい特徴のあるエリアごとの将来像を示しました。
ヒアリング等について	RE100 を達成している企業にもヒアリングに行ってもどうか。	山口委員	RE100 への参画を表明している企業（建築メーカー）へのヒアリングを実施しました。
	大学生でも 30 年後には 50 歳前後になっている。もっと下の年齢層に意見を聴くなどできないか。小学生にアンケートが難しければ絵画コンクールなど。中高生の意見を聴くなら府大のような出張アンケートでも良いのではないか。	若林委員	ご意見を踏まえ、高校生との意見交換会を開催しました。
	ベンチャー3社にこだわらずに、必要なところにはヒアリングをかけていくべき。	西委員	ベンチャー企業に加え、市の取組に係る大企業等にもヒアリングを行いました。また、Twitterでの意見募集や大学生への出張アンケート、高校生との意見交換会など、様々な意見の集約を行いました。
	Twitterの投稿件数が少ない。広報課アカウントなど、より発信力のあるところと連携するべき。	札幌委員	Twitterキャンペーンについては、広報課や東京事務所のアカウントによるリツイートなど、庁内連携のもと周知しました。